※令和４年度以降入学生用

学校番号	２１８

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	世界史探究「詳説世界史」　（山川出版社）						
副教材等	最新世界史図説「タペストリー」　（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

世界史探究は、ある地域の出来事を暗記することだけが目的ではありません。とくに近世・近代の歴史は、人々の選択や行動によって世界が大きく結びつき、社会の仕組みや価値観が急速に変化していった時代です。交易の拡大、戦争や革命、宗教や国家の形成といった出来事は、その時代を生きた人々の判断によって生み出され、他の地域や人々と深く結びつきながら展開してきました。この授業では、出来事の表面だけでなく、その背後にある人々の考えや目的、そして結果として世界がどのように変わったのかに目を向けます。「なぜこの時代にその選択がなされたのか」「別の可能性はなかったのか」を問い続けることで、歴史を人間の営みとして理解していきましょう。世界史を学ぶことを通して、現代の世界を読み解くための思考力と判断力を身につけることを期待しています。

2　学習の到達目標

・世界史における主要な出来事や制度、思想、文化の特徴を体系的に理解し、それらが生じた歴史的背景や社会的条件を関連付けて把握できる。また、年表・地図・史料・図版・統計資料など多様な資料を適切に読み取り、必要な情報を整理・比較・分析する技能を身につける。さらに、歴史用語を正確に用いながら、基礎的事項を説明できる力を養う。（知識及び技能）
・歴史的事象を単独の出来事としてではなく、時間的な連続性や空間的な広がり、因果関係や相互作用を踏まえて多面的・多角的に考察できる。その際、複数の資料や視点をもとに妥当性を検討し、自らの見解を形成する力を養う。また、自分の考えを根拠とともに文章や口頭発表で論理的に構成し、相手に伝わる形で表現する力を伸ばす。（思考力・判断力・表現力）
・世界史的課題に対して関心をもち、資料の比較・検討や問いの設定に主体的に取り組もうとする姿勢を身につける。授業や探究活動において、自分なりの疑問をもち、その解決に向けて粘り強く調べ、考え続けようとする態度を育成する。さらに、学習の振り返りを通して自らの理解を深めようとする姿勢を養う。（学びに向かう力、人間性）

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度

※令和４年度以降入学生用

観点の趣旨	各時代・地域の基本的事項や歴史用語を正確に理解し、その内容を適切に説明できている。史料や地図、統計資料などから必要な情報を的確に読み取り、それらを関連付けながら歴史的事象の特徴や背景を具体的に説明できている。また、基礎的知識を整理し、答案や課題において適切に活用できている。	歴史的事象の因果関係や相互の関連性を踏まえて論理的に考察し、複数の視点を踏まえた妥当な判断を行っている。資料や事実を根拠として自らの考えを構成し、問いに対して筋道立てて説明できている。記述や発表において、用語を適切に用いながら、自分の言葉でわかりやすく表現できている。	授業や課題に継続的かつ意欲的に取り組み、問いに対して自ら調べたり考察を深めたりしようとしている。学習内容を振り返り、理解の不足に気づいて改善しようとする姿勢が見られる。探究活動や討論においても積極的に参加し、学習をより深めようとする態度が継続して確認できる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)

※令和４年度以降入学生用

1学期	西ヨーロッパ中世世界の変容	① ローマ帝国の継承とビザンツ帝国 ② 正教会とスラヴ世界の形成 ③ 封建制と荘園制の構造 ④ 農業発展と人口増加 ⑤ 都市の発展と商業革命 ⑥ 王権の伸長と国家形成 ⑦ 中世文化（大学・スコラ哲学） ⑧ 中世社会の構造と変容の総括	a 知識・技能 中世西ヨーロッパ社会の政治・経済・宗教構造を理解し、封建制と都市発展の関係を説明できる。 b 思考・判断・表現 中世が「停滞」ではなく「変容と成長の時代」であったことを、多角的視点から考察できる。 c 主体的に学習に取り組む態度 社会構造の変化に着目し、現代社会との比較を通して歴史の連続性を考えようとしている。	定期考査	定期考査 提出物	提出物

※令和４年度以降入学生用

	東アジア世界とモンゴル帝国	① 唐末以降の東アジア再編 ② 宋の政治と文治主義 ③ 宋代経済と商業化 ④ 遼・西夏・金 ⑤ モンゴル高原と統一 ⑥ 帝国拡大とユーラシア支配 ⑦ モンゴル帝国の統治体制 ⑧ 元朝の支配 ⑨ 東西交流と交通網 ⑩ モンゴル帝国の歴史的意義	a 東アジアの政治体制とモンゴル帝国の支配構造を理解し、広域帝国の特徴を説明できる。 b モンゴル帝国がもたらした東西交流の意義を、経済・文化・交通の面から論じることができる。 c ユーラシア規模で歴史を捉え、地域を超えた視野で理解しようとしている。			
2学期	大交易・大交流の時代（	① アジア交易圏 ② インド洋交易 ③ ヨーロッパ海洋進出の背景 ④ ポルトガル・スペイン ⑤ アメリカ征服 ⑥ 植民地支配と先住民社会 ⑦ 世界経済の形成 ⑧ 大交易の総括	a 大航海時代の展開と世界経済形成の過程を理解できる。 b 交易拡大が繁栄と破壊の両面をもったことを説明できる。 c 「出会い」と「衝突」の両面から歴史を考えようとしている。	定期考査	定期考査 提出物	提出物

※令和４年度以降入学生用

	アジア諸帝国の繁栄	① オスマン帝国 ② サファヴィー朝 ③ ムガル帝国 ④ 清朝の成立 ⑤ 清代社会 ⑥ 諸帝国の比較	a イスラーム帝国と清朝の統治体制を比較できる。 b 広域帝国が多民族をどのように統治したかを考察できる。 c 異文化共存の歴史に関心をもち、現代との関連を考えようとしている。			
	近世ヨーロッパ世界	① ルネサンス ② 宗教改革 ③ 宗教戦争 ④ 主権国家体制 ⑤ 絶対王政 ⑥ 科学革命と啓蒙思想	a 近世ヨーロッパの思想・国家形成の流れを理解できる。 b 宗教改革と主権国家体制の関係を説明できる。 c 思想の変化が社会を動かす力を持つことを考えようとしている。			
	産業革命と環大西洋革命	① 産業革命の背景 ② 技術革新と工業化 ③ 社会構造の変化 ④ アメリカ独立 ⑤ フランス革命 ⑥ ナポレオン戦争 ⑦ ラテンアメリカ独立 ⑧ 市民革命の歴史的意義	a 産業革命と市民革命の内容と意義を理解できる。 b 「自由」「平等」「国民国家」の成立過程を論理的に説明できる。 c 革命が社会を変える力をもつことを主体的に考察している。			
	イギリスの優位と国民国家の	① ウィーン体制 ② 1848 年革命 ③ イタリア・ドイツ統一 ④ アメリカ合衆国の発展 ⑤ 帝国主義の拡大 ⑥ 19 世紀文化と市民社会	a 国民国家形成と帝国主義の展開を理解できる。 b ナショナリズムが統合と対立の両面を持つことを説明できる。 c 近代国家の形成が現代世界に与えた影響を考えようとしている。			

※令和４年度以降入学生用

3学期	近現代史	② ヴェルサイユ体制 ③ 世界恐慌と全体主義 ④ 第二次世界大戦 ⑤ 冷戦構造 ⑥ 東アジアの現代史 ⑦ 東南アジアの独立と発展 ⑧ ヨーロッパ統合と現代世界	a 20 世紀の国際秩序の変化を理解し、戦争と体制の変遷を説明できる。 b 現代世界の対立や協力の背景を歴史的に考察できる。 c 歴史を現在と結びつけ、自らの視点で世界を考えようとしている。	小テスト	提出物	提出物

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度